

Ⅲ 企業年金掛金・固定資産税などについて

- A** 厚生年金基金、企業型確定拠出年金などの本人拠出分について、年間支払額を記入してください。
- B** 土地や家屋などに対して課された固定資産税・都市計画税の年間支払額を記入してください。事業用に納めている税額は含めないでください。
- C** 過去1年間に車検を受けた場合は、そのときに支払った自動車重量税を含めて記入してください。自動車取得税(自動車の購入時に課される税)は含めないでください。スクーターなどに課される軽自動車税など、年間支払額が5千円に満たない場合は、「0」(万円)と記入してください。

Ⅳ 貯蓄現在高について

- 通帳や証券などで金額をご確認の上、記入してください。
- 公的年金や企業年金の掛金・貸した金・たんす預金・手持ち現金などは貯蓄に含めないでください。
- 「年金制度が組み込まれた貯蓄」は、(1)～(7)の該当する欄及び(8)欄に含めて記入した上で、(9)欄にも記入してください。外貨預金・外債・外国株式については、2019年10月末日現在の為替レートで円に換算し、該当する貯蓄の種類に含めて記入してください。
- 財形貯蓄(勤労者財産形成貯蓄)は、該当する貯蓄の種類に含めて記入してください。例えば、都市銀行の定期預金口座に預入している場合は、(1)の「定期預金・定期積金」欄に含めて記入してください。

D ネット専業銀行の預貯金は(1)の該当する欄にそれぞれ記入してください。

E 「通常貯蓄貯金」はこの欄に含まれます。

- F** ● 万が一のときに受け取る保険金の額ではなく、保険料の払込総額を記入してください。
- 払込総額がはっきりわからない場合は、過去1年間に払い込んだ金額に、今まで払い込んだ年数を乗じて推定した金額を記入してください。

G 貸付信託・金銭信託・債券は額面で、株式・投資信託は2019年10月末日現在の時価で記入してください。時価がわからない場合は、額面を記入してください。

H 社内預金*1、勤め先の互助会*2や共済組合などへの預貯金、証拠金・委託保証金・銀行の「金投資口座」・証券会社の「金貯蓄口座」は、この欄に記入してください。

*1 社内預金…労働基準法に基づき、会社と社員との協定により、会社自らが社員の預金を受け入れて管理するもの

*2 勤め先の互助会…冠婚葬祭を目的としたものを除く勤め先の互助会

I (1)～(7)の合計金額を記入してください。

J 年金制度が組み込まれている貯蓄とは、将来定期的に定められた額を受け取る制度がある貯蓄、例えば「財形年金貯蓄」・「個人年金信託」・「個人年金保険」などをいいます。ただし、公的年金(厚生年金、国民年金及び共済年金)や企業年金(確定給付年金・厚生年金基金など)、国民年金基金は含みません。

Ⅲ 企業年金掛金・固定資産税などについて

あなたの世帯が過去1年間(2018年11月から2019年10月まで)に支払った年金掛金や税金のうち、以下の合計額はどれくらいになりますか。

- A** (1) 企業年金の掛金(本人負担分のみ) あり なし → 百十 万円
- B** (2) 固定資産税・都市計画税 あり なし → 千百十 万円
- C** (3) 自動車税・軽自動車税・自動車重量税 あり なし → 十 万円

Ⅳ 貯蓄現在高について

あなたの世帯では、2019年10月末日現在で貯蓄がいくらありますか。

- 次の貯蓄の種類ごとに現在高を記入してください。
- ここでいう貯蓄には、家計用だけでなく個人営業のための分も含めてください。
- 勤労者財産形成貯蓄に加入している場合は、それぞれ該当する貯蓄の種類に含めて記入してください。

- D** (1) 銀行(ゆうちょ銀行を含みます) 定期預金・定期積金 額・定期・積立貯金 あり なし → (億)千百十 万円
- E** (1) 信用金庫・信用組合 普通・当座預金 あり なし → 十百十 万円
- (1) 農業協同組合、労働金庫などの金融機関 通常貯金 その他の預貯金 あり なし → 十百十 万円
- F** (2) 生命保険 損害保険 簡易保険(保険商品・年金商品) あり なし → 十百十 万円
- (加入してからの払込総額) ※掛け捨ての保険は含みません
- G** (3) 貸付信託 金銭信託(額面) あり なし → 十百十 万円
- H** (4) 株 式(時価) あり なし → 十百十 万円
- I** (5) 債 券(額面) あり なし → 十百十 万円
- J** (6) 投資信託(時価) あり なし → 十百十 万円
- K** (7) その他(社内預金など) あり なし → 十百十 万円
- (名称を具体的に記入してください) 社内預金
- L** (8) 合計 あり なし → (十億)千百十 万円
- M** (9) 上記(8)のうち年金制度が組み込まれている貯蓄 あり なし → 十百十 万円

Ⅴ 借入金残高について

あなたの世帯では、2019年10月末日現在で借入金あるいは月賦・年賦の未払残高がありますか。

- 借入金の種類ごとに残高を記入してください。
- ここでいう借入金には、家計用だけでなく個人営業のための分も含めてください。
- N** (1) 月賦・年賦の未払残高 あり なし → (億)千百十 万円
- ※乗用車、電気製品などの耐久消費財や衣類などを月賦・年賦(分割払い)で購入した場合の未払残高
- O** (2) 住宅の購入・建築・増改築 土地の購入のための借入金残高 あり なし → 十百十 万円
- P** (3) その他の借入金残高 あり なし → 十百十 万円

Q NISA(少額投資非課税制度)を利用している場合は、どのように記入するの?

A NISAに限らず、購入したものの種類(株式や投資信託など)によって、(1)～(7)の該当する欄に記入してください。

家族と離れて暮らしている世帯の貯蓄及び借入金について

- あなたの家族に単身赴任や出稼ぎの人がいる場合、その人の貯蓄及び借入金を家族で管理していれば、その人の分も含めて記入してください。
- あなたが単身赴任や出稼ぎで家族と別居している場合は、あなた自身で管理している貯蓄及び借入金を記入してください。

Ⅵ 借入金残高について

- 契約書や領収書などで金額をご確認の上、記入してください。
- 郵便局や銀行からの借入金だけでなく、勤め先の共済組合・親戚・知人などからの借入金も含めてください。
- クレジットカードで買い物し、代金を2回以上に分けて支払う場合は、(1)欄に未払残高を記入してください。1回払い、ボーナス一括払いの未払残高は、含めないでください。
- キャッシングサービス(現金を借り入れるサービス)を利用している場合は、未返済の残高を該当する欄に記入してください。

K 教育ローンなど生活に必要な資金、事業に必要な開業資金・運転資金を借り入れている場合などに記入してください。

マークの記入例

該当する項目には、「あり」にマークし、金額を記入してください。該当しない項目には、「なし」にマークし、金額欄は空欄のままとしてください。

あり あり

なし なし

